

(2) 居住誘導区域等における防災・減災まちづくりに向けた課題分析

① 洪水

原則として3m未滿の浸水深を居住誘導区域としていますが、洪水に対応した指定避難所は市街地北部に立地しており、居住誘導区域内外にかかわらず、浸水想定区域に含まれる地域においては、早期に避難するための避難方法や情報伝達、高齢者等の要配慮者の避難対策等の検討が必要です。

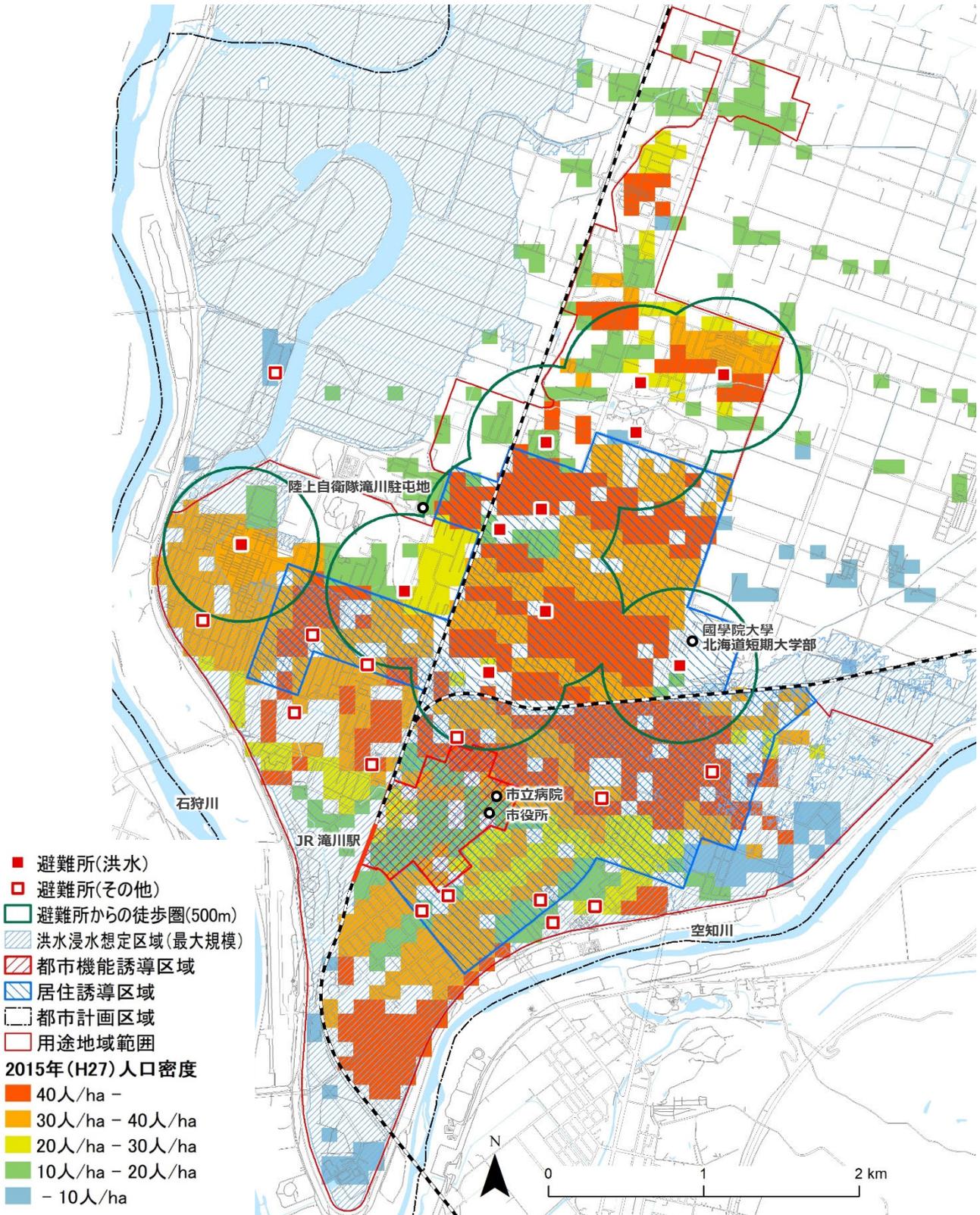


図 浸水想定区域と指定避難所の指定状況

資料: 滝川市「滝川市地域防災計画」、国土交通省北海道開発局札幌開発建設部「石狩川下流(本川・支川重ね区)洪水浸水想定区域図」

浸水想定区域に含まれる居住誘導区域において、医療施設、福祉施設などの要配慮施設が多数立地しており、指定避難所（洪水）の避難施設まで距離があります。各要配慮者施設において避難確保計画の策定と訓練の実施が義務付けられていることから、各施設への円滑な情報伝達が行われるとともに、警戒避難体制の強化等が必要です。

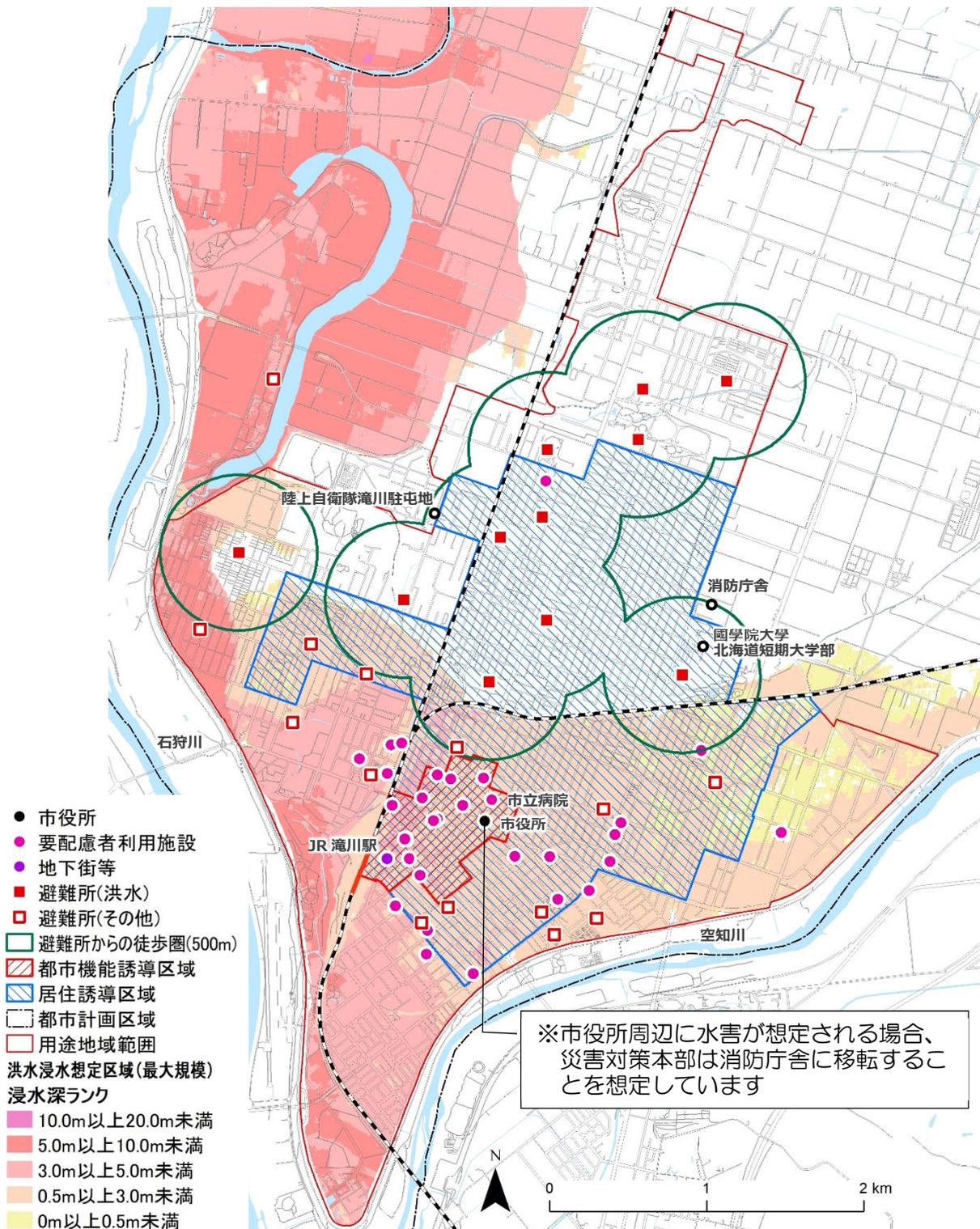


図 洪水浸水想定区域と要配慮施設の立地

資料：滝川市「滝川市地域防災計画」、国土交通省北海道開発局札幌開発建設部「石狩川下流(本川・支川重ね図)洪水浸水想定区域図」

誘導区域に含まれるJR 滝川駅周辺における建物階数をみると、浸水深 3m 以上の区域に 1、2 階の建物が多く立地しているため、早期の避難に向けた避難方法や情報伝達、高齢者等の要配慮者の避難対策等の検討が必要です。また、避難が遅れた人が 3 階以上の高い建物に垂直避難できるような対策についても検討しておくことが必要です。



図 建物の高さの状況

資料:滝川市「滝川市地域防災計画」、国土交通省北海道開発局札幌開発建設部「石狩川下流(本川・支川重ね)洪水浸水想定区域図」、北海道「都市計画基礎調査」

②土砂災害

土砂災害警戒区域等に指定されているエリアについては、法面対策などのハード対策と警戒・避難体制整備といったソフト対策を合わせて災害リスクを緩和（低減）することが必要です。

さらに、土地利用の制限や土砂災害区域内に立地している建物や施設の移転など、被災を回避する取組も必要です。

③ 居住誘導区域等における防災・減災まちづくりの課題まとめ

防災・減災まちづくりの課題をまとめると、下図に示すとおりとなります。

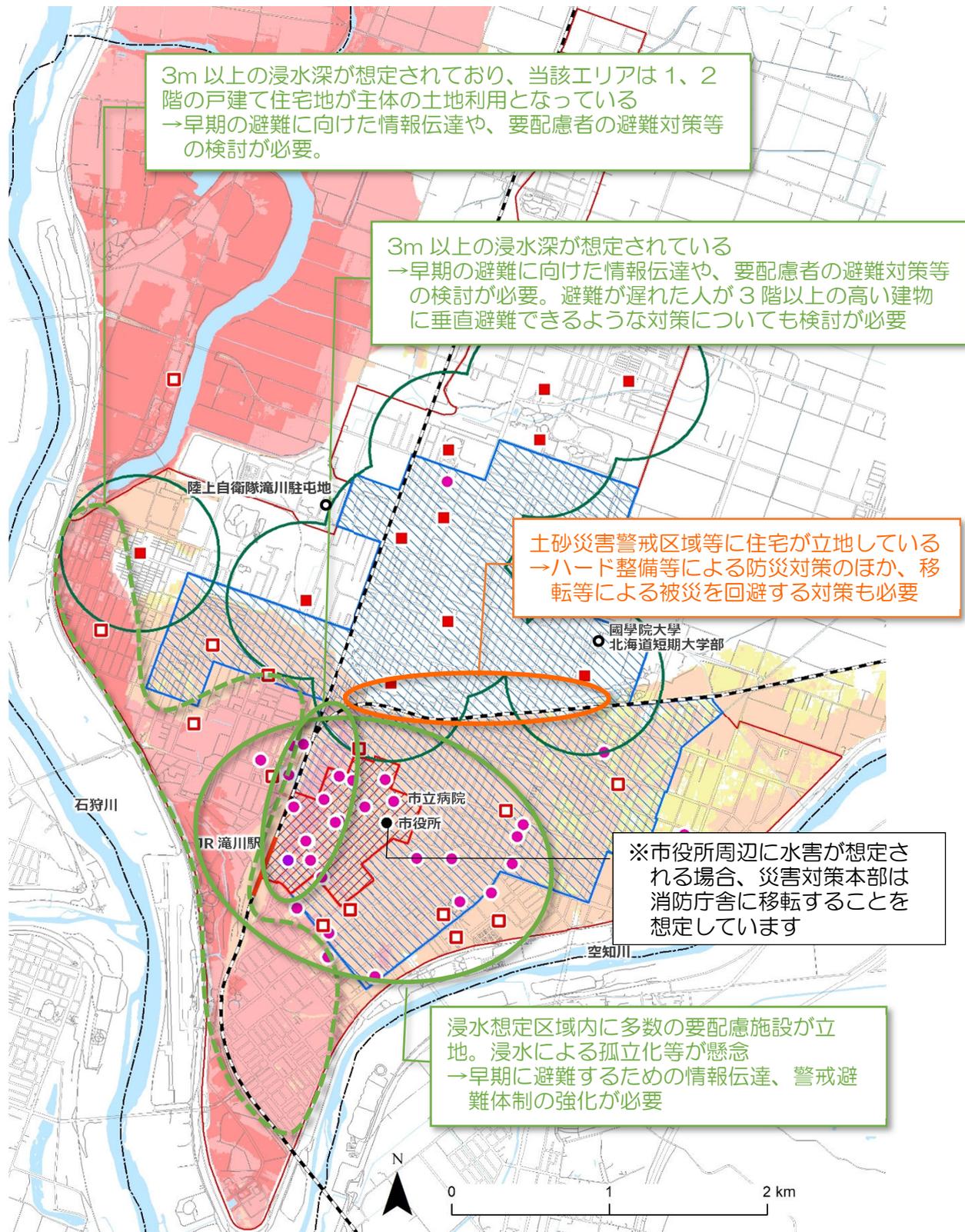


図 防災まちづくりに向けた課題図

7-3 防災・減災まちづくりの取組方針と取組

(1) 取組方針

滝川市における防災上の課題への対応にあたり、2つのまちづくり方針「滝川暮らしの質の向上」と「滝川に人を惹きつける魅力の創造」の実現に向けて、防災・減災まちづくりの推進にあたっては、①被害の回避と②ハードとソフトによる防災・減災対策を総合的に組み合わせて取り組みます。

【取組方針①】 被害の回避

【取組方針②】 ハードとソフトによる防災・減災対策

(2) 具体的な取組

①被害の回避

市民の安全な暮らしを確保するため、災害による被害を回避する対策に取り組みます。具体的には、洪水や土砂災害による建物の全壊の危険性があるエリアについては、居住誘導区域や都市機能誘導区域には設定しない（JR 滝川駅周辺は除く）ことや、また、災害ハザードエリアにおける開発抑制や、移転に関する支援を検討するなど、できる限り被害の回避を図ります。

- ・災害ハザードエリアにおける誘導区域の除外
- ・災害ハザードエリアにおける開発抑制
- ・災害ハザードエリアからの移転に関する支援の検討

②ハードとソフトによる防災・減災対策

市民の安全な暮らしを確保するため、河川改修や土砂災害防止対策等のハード面による防災対策に取り組みます。

また、ソフト面においては、より早く、安全に、確実に避難できる環境の充実とともに、市民が災害情報を十分に把握できるようハザードマップ等による周知徹底、情報伝達、避難体制の強化に努めます。

ハード	<ul style="list-style-type: none"> ・国、北海道と連携した河川の治水対策、土砂災害防止対策の推進 ・国、北海道と連携した緊急輸送道路の計画的な整備の推進 ・大規模水害時を想定した庁舎機能の移転対策等、防災対策の推進 ・水道施設、下水道施設等の防災対策の推進
ソフト	<ul style="list-style-type: none"> ・要配慮者施設等も含めた早期に避難できる体制の整備 ・市民や関係機関等との情報伝達体制の強化 ・出前講座などを通じた避難所や避難行動の周知 ・ハザードマップの作成と市民への周知（継続） ・防災訓練や防災意識を高める取組による防災教育の推進 ・「コミュニティ・タイムライン」の作成 ・非常用物資の備蓄推進 <p style="text-align: right;">など</p>

7-4 スケジュール・目標値の検討

具体的な取組について、短期・中期・長期のスケジュール及び目標を次のように設定します。

※「滝川市強靱化計画」を踏まえ、目標年次を短期（5年程度）、中期（10年程度）、長期（20年程度）に設定しました。

表 スケジュール

取組方針	取組	短期 (5年程度)	中期 (10年程度)	長期 (20年程度)
被害の回避	災害ハザードエリアにおける誘導区域の除外	→	→	→
	災害ハザードエリアにおける開発抑制	→	→	→
	災害ハザードエリアからの移転に関する支援の検討	→	→	→
ハードとソフトによる防災・減災対策	【ハード】			
	国、北海道と連携した河川の治水対策、土砂災害防止対策の推進	→	→	→
	国、北海道と連携した緊急輸送道路の計画的な整備の推進	→	→	→
	大規模水害時を想定した庁舎機能の移転対策等、防災対策の推進	→	→	→ (継続)
	水道施設、下水道施設等の防災対策の推進	→	→	→
	【ソフト】			
	要配慮者施設等も含めた早期に避難できる体制の整備	→	→	→ (継続)
	市民や関係機関等との情報伝達体制の強化	→	→ (継続)	→ (継続)
	出前講座などを通じた避難所や避難行動の周知	→	→ (継続)	→ (継続)
	ハザードマップの作成と市民への周知	→	→ (継続)	→ (継続)
	防災訓練や防災意識を高める取組による防災教育の推進	→	→ (継続)	→ (継続)
	「コミュニティ・タイムライン」の作成	→	→	→ (継続)
	非常用物資の備蓄推進	→	→	→ (継続)

表 目標値（「滝川市強靱化計画」より）

項目	現状値	目標値（短期）	方向性
住宅の耐震化率	79.5%	95.0%	↗
多数の者が利用する施設の耐震化率	84.4%	95.0%	↗
福祉避難所の指定数	6箇所	—	↗
自主防災組織率	92.1%	—	→
消防団員充足率	91.4%	—	→
街路灯におけるLED照明設置基数	4,146基	4,560基	↗
下水道重要管路の点検調査率	0%	54%	↗
雨水排水整備率	62.3%	—	↗
橋長15m以上の橋梁の修繕率	12%	35%	↗

資料：滝川市「滝川市強靱化計画」